

# JRRN 会員アンケート 集計結果 及び 今後の取組

## 事例集「よみがえる川 ～日本と世界の河川再生事例集～」について

2011年8月15日 JRRN 事務局

◆アンケート実施期間： 2011年6月28日（火）～7月9日（金）

◆回答者総数： 68名

### 1. アンケート項目

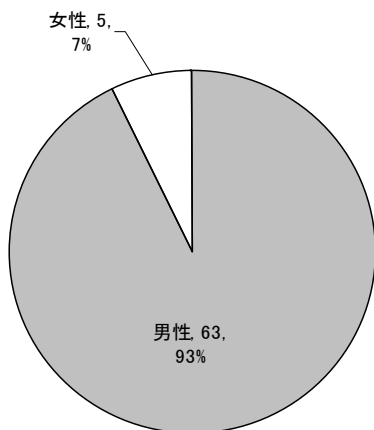
設問項目	
<b>回答者の属性について</b>	
1. あなたの性別を教えてください。(単一回答)	<input type="radio"/> 男性 <input type="radio"/> 女性
2. あなたの年齢を教えてください。(単一回答)	<input type="radio"/> 10代以下 <input type="radio"/> 20代 <input type="radio"/> 30代 <input type="radio"/> 40代 <input type="radio"/> 50代 <input type="radio"/> 60代以上
3. 現在のご所属を教えてください。(単一回答)	<input type="radio"/> 市民団体 <input type="radio"/> 研究・教育機関 <input type="radio"/> 公益法人 <input type="radio"/> その他 ( ) <input type="radio"/> 行政機関 <input type="radio"/> 民間企業 <input type="radio"/> 所属なし
<b>事例集に関する感想について</b>	
4. 各事例に関する情報内容についてどのように感じましたか？(単一回答)	<input type="radio"/> もっと簡単で良い <input type="radio"/> もっと詳しく知りたい <input type="radio"/> ちょうど良い <input type="radio"/> その他 ( )
5. 事例を紹介した文章についてどのように感じましたか？(単一回答)	<input type="radio"/> わかりやすかった <input type="radio"/> わかりにくかった <input type="radio"/> その他 ( )
6. 事例の紹介に用いた写真や画像についてどのように感じましたか？(単一回答)	<input type="radio"/> わかりやすかった <input type="radio"/> わかりにくかった <input type="radio"/> その他 ( )
7. 事例集の国内事例編及び海外事例編では、各事例に当てはまる「再生の視点」を5種類のマークで表示しています。あなたが関心のある「再生の視点」はどれですか？(複数回答)	<input type="radio"/> 水辺の生物 <input type="radio"/> 舟運 <input type="radio"/> 地域のにぎわい <input type="radio"/> 水環境 <input type="radio"/> 歴史・文化 <input type="radio"/> 特になし
8. 前の設問で挙げた5つの「再生の視点」以外で、興味・関心のある「再生の視点」(キーワード)がありましたら、お答え下さい。(自由記述)	
9. あなたが興味を感じたのはどの部分でしたか？(複数回答)	<input type="radio"/> 河川再生とは <input type="radio"/> 現地からの報告編 <input type="radio"/> 特になし <input type="radio"/> 国内事例編 <input type="radio"/> 海外事例リスト <input type="radio"/> 海外事例編 <input type="radio"/> その他 ( )
10. 事例集に関するご意見・感想等がございましたら、お聞かせ下さい。(自由記述)	
<b>更に役立つ事例集の発刊に向けて</b>	
11. 今後、事例として取り上げて欲しい河川がありましたら、お答え下さい。また、その理由もあわせてお答え下さい。(自由記述)	
12. 今後、事例集などをJRRN事務局が作成する際に、写真・資料の提供や執筆等にご協力いただけますか？	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ <input type="radio"/> その他 ( )
13. 皆様に更に役立つ事例集を作成するために、今後充実して欲しい内容があればお聞かせ下さい。(複数)	<input type="radio"/> 河川再生のきっかけ <input type="radio"/> 河川再生後の維持管理 <input type="radio"/> 市民、行政、企業等の役割 <input type="radio"/> 河川再生の目標 <input type="radio"/> 河川再生に関する技術 <input type="radio"/> 河川再生の仕組み・制度 <input type="radio"/> 河川再生のあゆみ <input type="radio"/> 河川再生後の現状・評価 <input type="radio"/> その他 ( )
14. 今後、更に役立つ事例集を作成するためのご意見・提案等がございましたらお聞かせ下さい。(自由記述)	
<b>その他</b>	
15. JRRNへの期待やご要望、その他何でもお聞かせ下さい。(自由記述)	

## 2. 集計結果

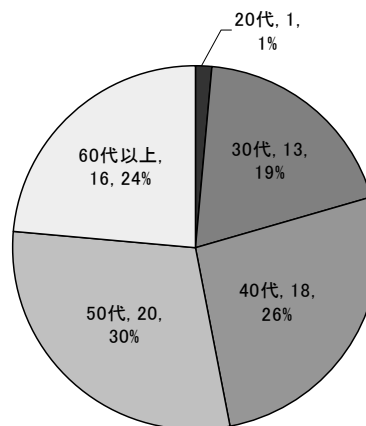
※集計に際し、個人情報に関わる部分は、JRRN 事務局により回答内容を一部加工させていただきました。

### (1) 回答者の属性

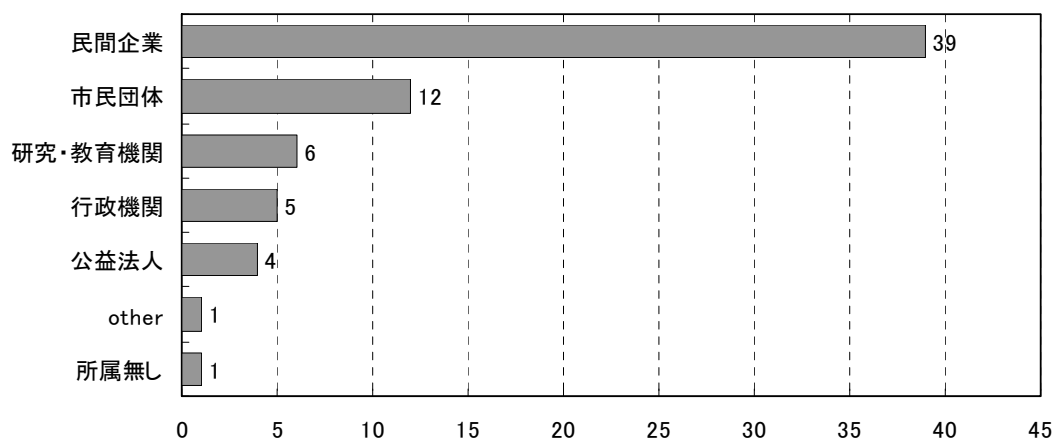
#### 1) 性別 (問 1)



#### 2) 年齢 (問 2)

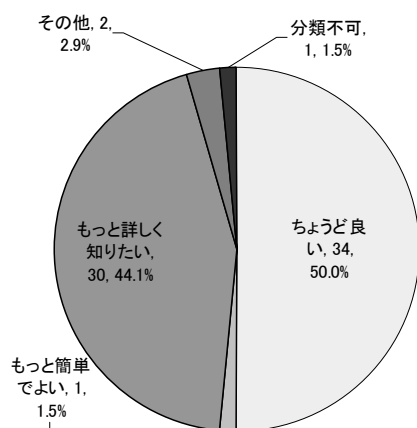


#### 3) 所属 (問 3)

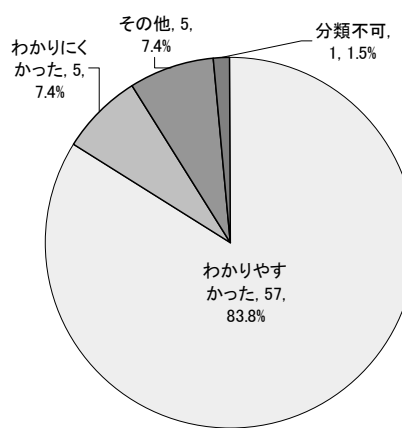


### (2) 事例集に関する感想

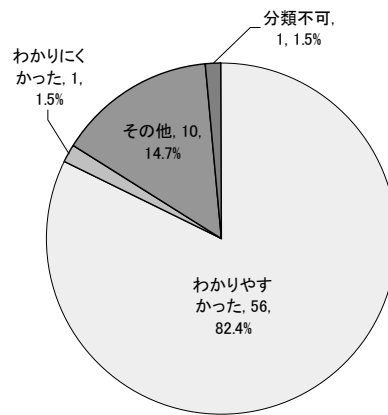
#### 1) 各事例に関する内容についてどのように感じましたか？ (問 4)



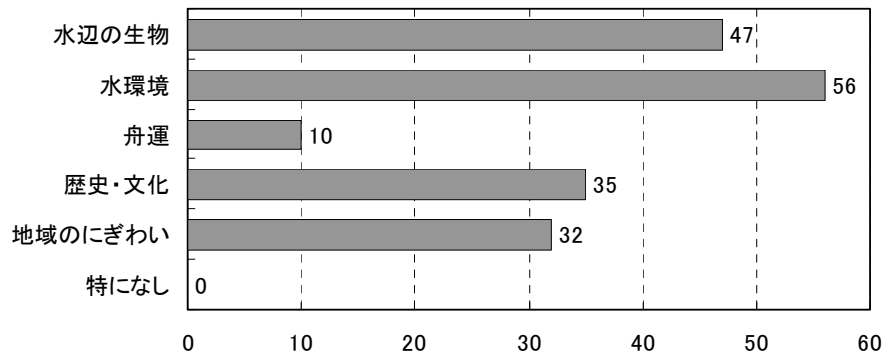
#### 2) 事例を紹介した文章についてどのように感じましたか？ (問 5)



3) 事例の紹介に用いた写真や画像についてどのように感じましたか？（問6）



4) あなたが関心のある「再生の視点」はどれですか？（問7）



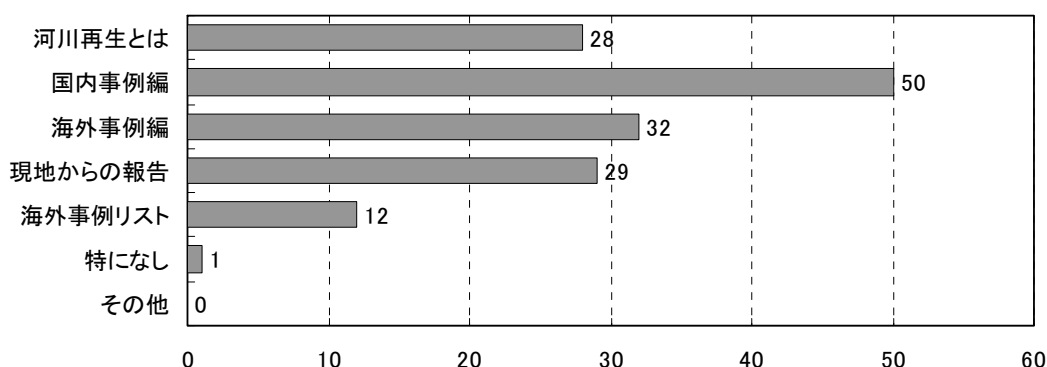
5) 前の設問で挙げた5つの「再生の視点」以外で、興味・関心のある「再生の視点」（キーワード）がありましたら、お答え下さい。（問8）

- ・ 住民が積極的に関与した再生
- ・ 水辺の利用と逃げることも含めた治水の両立
- ・ 森里海連環、自然再生
- ・ 過去と現在の比較による変化
- ・ 如何に地域で再生運動が推進されたか。
- ・ 再生への取組みの中で、工夫点や失敗した点の紹介。
- ・ 観光産業等への活用
- ・ 環境ビジネスとの連携、多様な主体の協働、資金や人材の工夫
- ・ 実績を紹介する主旨だと思いますが、技術者にとっては河川の水利特性、また水系における位置、環境、構造図面など少し詳細な検討が明確になるように簡潔に提示していただければと考えます。
- ・ 将来的な課題は実務者が知りたいことが明記しており、参考文献、調査文献等が解ればよいと考えます。
- ・ 川の流れ（流路）の多様性。平常時の流れと洪水時の流れ。土砂移動の様子。
- ・ 河畔林・草地・河原のバランス。白波など水の流れの感じられる無為面。
- ・ 地域住民との協働の進め方
- ・ 治水、利水との両立(水利権の調整)
- ・ 舟運に入るかもしれませんが、市民の水辺へのアクセス、親密度のような視点。

- ・ 生物の世代更新を考慮した川、水路、池・田圃など一体性のある市街地河川（河川流域）の再生。
- ・ 例にあるように、市民が主体となった維持管理、地域連携によるモニタリング、ハリエンジュ等の外来種対策事例等もあると良い。
- ・ 小河川での事例
- ・ 自然環境と地域のにぎわいの両立
- ・ 景観生態、応用生態、工事後のモニタリングと厳格な評価、順応的管理結果の事業計画への反映
- ・ 水辺の景観
- ・ やさしい水の音が聴こえる川
- ・ 落差工など魚類などの移動阻害となる構造物があると大きく激しい音がする川となるのでやさしい水の音が聴こえる川に再生した事例や取り組み
- ・ 生物多様性
- ・ 流域の水量・水質に係わる運用管理について
- ・ 整備済み河川における維持管理（特に土砂の堆積・樹林化）
- ・ 人工物を排除（自然的にカムフラージュ）した河川（その技術と事例）
- ・ 市民と川とのかかわり方
- ・ 河との親しみ方
- ・ ダムと魚道（魚が遡上出来ないダムや魚道が多い）
- ・ あまりわけ過ぎても焦点がボケる印象を受ける。自然環境（水辺の生物、水環境）と人文環境（舟運、地域のにぎわい、歴史・文化）で十分。そこから細別したほうが良いのでは？
- ・ 河川形態
- ・ 地域住民とのかかわり
- ・ 水は命の源である事を伝える事の大切さです。
- ・ 生物多様性や外来種問題に関する取り組み
- ・ 河川流域環境
- ・ 川の民族・祭りをテーマにした再生事例など
- ・ 治水安全性の確保との折り合い
- ・ 合意形成の手法
- ・ 順応的管理の具体的な取り組み事例
- ・ 水循環などの水環境の改善に伴う漁業、海運業、農業、観光業（グリーンツーリズム系）の再生、企業の再生。
- ・ 50年、100年先を考えた管理
- ・ 「防災」「減災」。この観点からどうだったかをわかると、再生が防災の面でもメリットがあると示せる事例もあるのではと思いました。
- ・ 川辺の美しい風景づくり
- ・ 暮らしとの関わり
- ・ 住民参加と合意形成プロセス（川づくりの各段階での住民の関わり内容）
- ・ 営みを感じる川。川との対話を楽しむ。
- ・ 再生の契機について記すべき。
- ・ 行政の主導か、民からの要請かの違いは大きい。
- ・ 市民参加による維持管理
- ・ 市民参加による川づくり、地域づくり。

- ・ 再生に向けた市民への啓発
- ・ いかにか再生していったか
- ・ 景観
- ・ 市民主体で進める生態系の修復&歴史的・文化的価値の創造（再構築）
- ・ 湿地環境
- ・ 自治体の垣根を越えた流域視点の事業
- ・ 防災、地域計画
- ・ 事業推進に当たり、各ステークホルダーがどのように連携していったのか。
- ・ この部分の回答については、後日開催される定例会で会員に紹介し、現在回覧中ですので、意見を集約後に後ほど回答します。しばらくご猶予ください。

#### 6) あなたが興味を感じたのはどの部分でしたか？（問9）



#### 7) 事例集に関するご意見・感想等がございましたら、お聞かせ下さい。（問10）

- ・ 国内事例に関しては、全国の河川が紹介されていて読みやすかったです。海外事例については、もっと知りたい川が多くあり、更に2ページ程度で紹介される川を増やしてほしいと思いました。現地からの報告編は、字のサイズを小さくする等で、もう少しボリュームを減らしてもよいかと思えます。国内の事例リストも掲載して欲しいです。
- ・ 国交省や県などが金をかけたところが再生の目玉になっていますが、水車など整備しても使いこなすのがなかなか難しい。市民団体などと言っても、バックに行政、政治、宗教ないと実際は続かない。
- ・ 国内事例の数が減っても良いので、もう少し詳細や団体の連絡先など欲しい
- ・ 各事例とも表面的で、これを活用して学生や市民に事例紹介するには物足りない。事業の背景や、再生のきっかけ、デザインのポイント、事後の波及などを、各々もう少し詳しく書いて欲しい。また、PDF版では写真が不鮮明。
- ・ 海外の事例に関しては現地の状況が良く解らないので、資料等を少し記載してもよいと考えます。
- ・ もう少し詳しい内容（工法や構造など）、ホームページの紹介などがあればありがたい。
- ・ ダウンロードした事例集より、実際に送られてきた事例集のほうがはるかに良かったです。売っていただけるなら買いたいという人も複数いました。
- ・ 相互理解を促進する目的で、英語版も作成されてはいかがでしょうか。
- ・ 河川浄化施設の、国内外での状況をどこかで取りまとめていただくと良いのではないかと考えています。
- ・ 小規模河川での事例もほしい。
- ・ 多数の事例を紹介いただき、ありがとうございました。

- 取り上げられた河川の全体平面図および地域の環境図などを併用してどのように再生したのかをわかりやすく説明願えればと思いました。事例数を減らしてでも1河川数頁（4～6）で構成し、背景や歴史観なども取り入れて頂きたく思いました。勝手なお願いですみません。
- もっと特定のテーマ（上記の視点みたいなもの）に特化した内容が欲しい。実務者による記述が欲しい。
- 親しみを感じられるような川づくり、危険と背中合わせの川へのかかわり方をもっと一般市民に知らせることが必要である。
- 大変参考になります。
- 写真や図があり、見やすい。
- 過去の空中写真と現在の空中写真との比較を全河川でやってもらいたい。
- もう少し技術的な記述がほしい。
- このような事例集を継続して発行していただきたい。
- 行政の下請けのようなNPOなどが多いのに、お金の流れの説明が全くない。  
市民団体が実施仕様としても、お金がなければできないことが多い。行政との協力という表現だが、行政と団体と個人が癒着している現状も知りたい。ボランティアで活動している市民団体と、給料を貰って活動しているNPOとの確執はどうするかなど、草の根の活動を続けるための事例を紹介して欲しい。
- 今後も新たな情報の元に発行されることを望みます。
- 韓国の川名は、日本語読みのカタカナ表記があれば助かります。  
各河川の諸元一覧表があれば、参考になります。（川の主な役割も付記していただければ尚可）
- 現地からの報告編については貴重な資料だとは思いますが、寄せ集めの感じが否めません。再生の5つの視点に振り分けて整理された方が、全体の統一感があつたように感じます。
- 写真がきれいで、見た目がよい。いい紙を利用している。
- 各河川の課題とそれに対する活動、各河川のPRがまとまっていて読みやすかった。
- コラムの写真と簡単なコメントは、とても素晴らしいと感じました。  
事例については、全般にもう少し詳しく、掘り下げた内容を知りたいと感じました。
- 写真が多いのがうれしい。
- 行政的な立場は理解できるが、再生事業の美点（メリット）ばかりを取り上げており、欠点（デメリット）もあることを記すべきである。
- 静岡県の某事例などはメリットばかりを載せているが、河川生物の点からいえば、あまりにも人工化しすぎてしまった。土羽の岸辺の部分もあつたのだが、残すべきという主張は完全に無視され、完全な人工的な護岸に。それで親水機能は高まったことは確かであるが、「河川再生」の例としてはいただけない。住民が川の中に出したゴミを取り上げるだけでよかったのではとも思う。静岡市の某河川で非営利団体を率いてそのような活動を行っている立場からそのように感じる。
- 写真が非常にきれいで見ていて気持ちがいい。また、再生前後を見ることができ、今後開発途上国へ日本の世界のこういった取り組みを広げていく大きな助けになると感じました。
- 豊富な事例が掲載されていて内容には満足しております。
- 国内事例を増やして欲しい。
- 河川再生の内容のイメージが明確になるので良いと思います。
- この度はありがとうございました。今後も使いやすい事例集の発行をお願いします。
- 会員の意見を集約後、改めてご連絡します。

### (3) 更に役立つ事例集の刊行に向けて

- 1) 今後、事例として取り上げて欲しい河川がありましたら、お答え下さい。また、その理由もあわせてお答え下さい。(問 11)

- いい川シンポジウム等で常連の、地域が主体となって再生された河川を特に充実して欲しいと思います。
- 兵庫県神河町の水車利用（新野駅前成功したが、寺前の水車公園は不成功。）
- 国、県の他に参画している団体、自治体などのそれぞれの役割など仕組みが分かれば・・・
- 由良川、武庫川。どちらも森里海連環の取り組み。保津川、ゴミマップ調査とイカダ流しの復活。
- ユーラシア、アフリカ、アラビア半島における河川の課題と取組。
- 改善をやりたくとも、どのように進めれば良いのか判らない。成功事例と共に失敗事例を学ぶことで、自分たちの運動の参考になると思います。
- 長良川の河口堰問題。開門に向けていろいろ議論が成されておりますが、生態系や農業に与える影響等を他の事例と比較しながら検証してほしい。
- 加勢川、諏訪湖、多摩川、荒川など（部分的ではあるが再生の事例は多々あるはず）
- 自然再生事業を実施している手取川、鬼怒川、天竜川
- ① 駅館川（やっかんがわ）大分県宇佐市 子供時代、よく遊んだ瀬や淵がどうなったか？知りたい  
② 番匠川（ばんじょうがわ）大分県佐伯市 同上
- 自然再生事業として取組まれている箇所を網羅して、投資効果を含めて取組み状況と問題点を教えてほしい。
- 公共・行政と離れたところでの活動事例があれば教えてほしい。
- モニタリング活動に市民が自主的に取り組まれている事例とモニタリングの内容を教えてほしい。
- 初期の優良事例のその後。
- 明治時代から大正時代にかけて住友鉱山がおこなった愛媛県の東予地域の自然再生の試みについて取り上げてもらいたいです。どのような取り組みを行ったのか知りたくて、住友建設や住友鉱山に連絡を取ったのですが、回答がありません。このまま、愛媛県の河川や道路の工事により、せっかくの素晴らしい明治から大正時代にかけて実施された自然再生の実例が失われていくのが残念でなりません。できましたら、本格的な調査と保存をお願いしたいのです。
- 川の愛護活動や運動としてではなく、地域の日々の営みの結果の現れとして、美しい川が保たれている事例として、庄内川水系土岐川の釜戸地区の佇まいを紹介したい。
- 北海道石狩川の自然再生では、湿地再生を実施し、その後のモニタリングも地域連携によって進められている。また、小中学生等の体験学習の場にも活用されているので紹介してほしい。
- 実務で小規模河川を扱うことが多いので、その事例もほしい。
- 東北地方太平洋沖地震、津波等で被災後、復旧後の河川等。
- 魚がのぼりやすい川づくりは、多自然川づくりに包含され進められていると思うが、魚がのぼりやすい川づくり事業として 5 年計画等で整備を実施した河川は、改修上困難な河川横断工作物も改善対象として事業計画を策定されていたように思う（遠賀川など）。
- 現在、河川整備計画の策定が進む河川等においては、将来的な堰の更新時に協議し魚道の設置を検討するという対応が多く感じる。
- 河川の上下流や横断方向への生物の移動改善は、多様な水際環境と同様に重要であるため、魚類の遡上降下状況について、直轄河川での現状を把握し、改善点・改善予定年度を明らかにしてはどうでしょうか。
- 外来魚類の遡上拡散等の問題もありますが、現状でも特定外来生物の侵入・拡散が進む中においては、在

来生物の移動性も確保すべきと考えます。

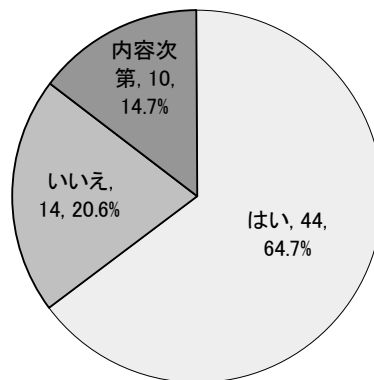
- 大橋川（島根県松江市）、改修事業に対する市民の意見などが幅広く議論された。
- ふるさと川のつくり対象河川全般（多くの事業が実施後10年以上経過しており、当時は人工的、自然的だった川を今見直すとどんなか？）
- 淀川で取り組まれているワンド再生が行われていると聞いています。河川改修時にワンド等魚類の生息環境を創出するための事例として知りたい。
- 街の中を流れる川(水路)が各地で利用、再生されていると聞きますので地域と川(水路)のかかわり方を知りたい。
- 私の所属する地域団体では、信濃川の河口から長野県：千曲川上流まで鮭を遡上させようと5年前から長野県の地域団体と流域交流して活動しています。信濃川流域には2つのダムがあります。ダム管理会社と有効な関係作りに努めてきました。そのお陰で、1匹の「鮭」が65年振りに上田市まで遡上(今年)しました。5年間は努力の積み重ねでした。これからも、トライが続きます。広く紹介して頂ければ幸いです。
- 一級河川すべて網羅。でも地元のいい川もちゃんと紹介。
- 特にどの川というわけではありませんが、川のももとの自然形態の再生に成功した事例を取り上げてほしい。
- 情報提供できるように頑張ります。
- 多摩川の外来種問題の取り組み
- 世田谷区谷戸川は水路の位置付けですが、導水や沿線環境の改善を行なっているところと聴いています。更なる地元参加型の河川整備の可能性を検討できれば幸いです。
- 派川、捷水路、運河、導水路などは、別枠でおまとめの機会があればと思います。
- 特定の河川ではありませんが、よい事例があれば情報を発信して頂ければ、と思います。  
人口の集中する都市域においては、定住している方々に加え、一定の期間で移動される人も多いと思います。そのような状況において、如何にして公共の利益に資する事業の合意形成を図っていくことが求められるのでしょうか？
- 漁業の再生、海運業の再生、農業の再生などもおもしろいかも。
- 荒川水系市野川（埼玉県羽尾地区）では、蛇行河川の流下能力向上（直線化工事）にあたり、専門家・市民・行政の協働で整備計画を見直し、1蛇行分について、引き続き蛇行河川に洪水流量を負担させる新たな2WAY方式を採用。整備が終わり、市民によるモニタリングが行われています。蛇行河川の流下能力向上の一つの手法として、様々な角度からの検証とPRをしていただければありがたいです。（私は、本件に市民の立場で関わっております。）
- 岡山県の旭川。市民団体と行政とが、川の再生に向けてできることを、毎年着実に実施されていると聞いています。中央公論（2006）で、河原再生によって、川が動き始めたという記事がありましたが、その後どうなったかが気になります。
- スイス・チューリヒ州ネフテンバッハ村には近自然化で著名な川の一つネフバッハ川が流れるが、その上流支流にクレーブスバッハ川があるが、その際上流部は見事に自然的に再生されている。私は過去に複数回そこを実見しているが、再生河川と思えないほど自然的。一度取り上げたらどうか。スイス在住の近自然研究家の山脇正俊氏もしばしばここを取り上げているようである。
- 埼玉県は上田知事の音頭で、川とみどりの再生をスローガンに掲げて、河川の賑わいの創出を進めております。されど、土木工事の域を越えてはならず、環境（生物多様性保全）の視点は残念ながら欠けているように思います。二項対立ではなく、地域活性化と自然修復の面で参考にある事例があれば参考にして参



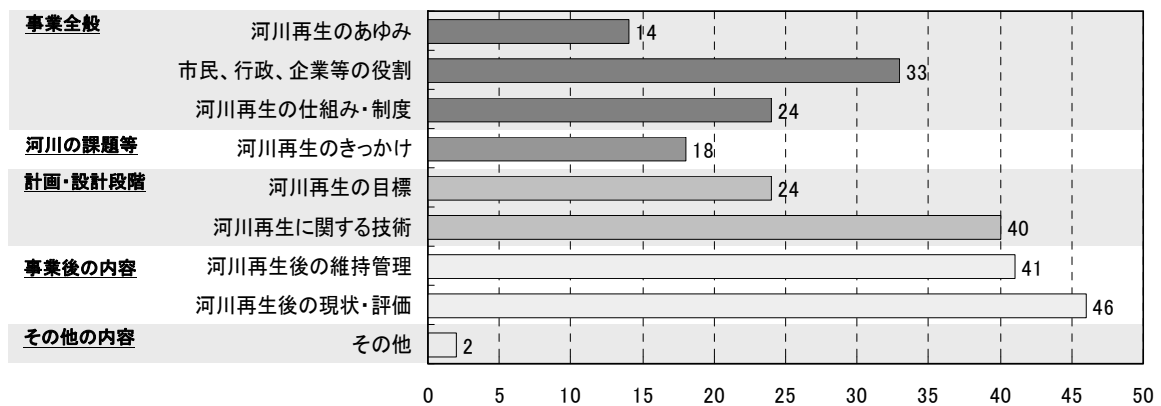
りたいと思います。(具体的な河川の推奨ではなく、すみません。)

- ・ 急流河川での再生事業事例
- ・ 河川改修などが進んでいない、昔からの河川と周辺の土地利用が行われている魅力的な事例をとりあげ、再生の必要性とリンクさせてほしいと思います。
- ・ 今まで紹介されていない都道府県の河川。
- ・ 会員の意見を集約後、改めてご連絡させていただきます。

2) 今後、事例集などを JRRN 事務局が作成する際に、写真・資料の提供や執筆等にご協力いただけますか？ (問 12)



3) 役立つ事例集を作成するために、今後充実して欲しい内容があればお聞かせ下さい。(問 13)



4) 更に役立つ事例集を作成するためのご意見・提案等がございましたらお聞かせ下さい。(問 14)

- ・ 実際に河川再生に携わった人々からの情報提供があると、よりリアルな事例集になると思います。
- ・ 再生の担い手が実際に何で生計を立てているのかを、再生技術とともに、記述する。
- ・ 河川再生のきっかけ～取り組みに至るプロセスまで含めて特定の川を掘り下げたものなどがみてみたい
- ・ 紙面と連動してユーチューブでの動画なども見ればいいですね。動きがないとわかりにくいものや、プロジェクトのリーダーからのメッセージなど。
- ・ 執筆者を各事例に関わった専門家から構成し、執筆内容を吟味、統一させ、深みのある内容にして欲しい。
- ・ 検証、評価がなされていない実績箇所、課題が残った箇所等の実施途中の事例を初期、中期、ほぼ到達と

段階的に紹介するのもよいと思います。

- 河川再生に投資された建設費、維持管理費の変遷（国内、海外）を知りたい。また、河川再生の計画・設計・施工・維持管理の具体的な考え方を知りたい。
- 英語版は作成されているのでしょうか？
- 現場で仕事に携わって、痛切に感じるのは、主に3点あって、そういう部分にも着目して、掘り下げて考えて欲しい。
  - 1) 「河川管理」＝「河川管理施設等の管理」であるという文化が払拭できないこと。
  - 2) 均一化かつ標準化された護岸を作ることにまだ、盲従している。「自然再生」＝貴重な生物の居ない「普通の川」は自然再生の予算化はできない。予算担当は、何が生え、何が棲むか！ばかりを問うてくるが、外来植物にコイだらけの川を作り続けて良いのだろうか。
  - 3) 「技術評価」制度の自然環境に対する欠陥＝工学的技術力や安全施工の評価のみで、工事や設計契約の総合評価制度や組織には、自然環境を考慮する制度や能力は無い。
- とくにありません。
- 特になし
- 例えば、市民主体による維持管理をしている河川を対象にして、その市民のリーダーの書記のみを特集した事例集（私たちはこのように川を守ってます特集）
- 課題とその解決策がすぐわかるようだとよいのではないか。
- サブタイトルを付ける。
- 人と川との結びつきがわかる内容を必ず入れる。
- 河川本来の自然形態の再生に成功した事例の特集を望みたい。
- 全国の取り組みを役割分担を含めて知りたいです。
- 事例集に掲載した団体の収支を知らせて欲しい。
- 再生後の、市民との関わりの継続などを追跡の意義あり。
- 渡り鳥ネットワークの観点から、中継地として関わりを持つ国内外の飛来地同士において、連携した自然再生などの取り組みの可能性について。
- 水循環改善に伴う産業や企業の再生。とりわけ、海運業、漁業の再生、農業の再生など。
- 弊社は東京都内の河川の浄化実験を担当しました。その他河川の河口浄化にも乗り出したいと考えています。しかし、やはり一筋縄では行きません。技術は企業が提供できますが、主体となるのはやはり行政（＝税金）ですので、周辺住民や学識者の意見に重きが置かれます。産官学民が一致団結し、お互いが利益の奪い合いにならずに活動しているような事例がありましたら、ぜひご紹介頂きたいと思います。
- 失敗に学ぶという観点から、うまくいっていない事例も知りたいと思いました。また、ローカルな河川再生が流域や地域でどのように捉えられているか、評価されているかについてもより多くの事例を知りたいと思いました。
- 各事例のアピールポイント（いい川づくりの視点）をサブタイトルとして掲げ、それに即した構成（見出し）で編集したほうが、よりインパクトのある事例集になると思います。また特筆事項や住民参加プロセスやメンバー構成、苦慮したこと、工夫したことなど。フロント別冊「川のトータルデザイン」（2002.2）は、とても素晴らしい構成で、このほうがポイントが明確で、インパクトがより強くなるように思います。
- とくにない
- 日本が、世界がどのように再生に目が向いていったのか、そしてどのような取り組みを行って市民の考え

が変わり再生に向けての活動が始まっていったのか、かつて日本が世界が経験した流れを知りたい。それが開発途上国へこの技術・考えを広める大きなヒントになるはず。またそのためには英語版をぜひ作っていただきたい。

- ・ 計画地点の、施工前後の断面図など、構造が分かる資料を添付していただきたい。(できれば河道諸元も)
- ・ 事業主体と市民団体等の関係を整理していただければもっとわかりやすい。
- ・ 意見集約後ご連絡します。

#### (4) その他

JRRN への期待やご要望、その他何でもお聞かせ下さい。(問 15)

- ・ 河川整備基金などなかなか当らないです。各種助成金情報など、増やしてください。
- ・ 社会状況から環境は優先度が下がっている感じがする中で大変だと思いますが、引き続き頑張ってください。
- ・ いつも情報ありがとうございます。地元の活動の参考にさせてもらっております。
- ・ いつも楽しく且つ役立つ情報をありがとうございます。このような機関の情報がもっと広く国民に知られることを期待します。また友人知人にも発信して参ります。ぜひぜひ継続してください。
- ・ 海岸、河口分野の事例も紹介するようにお願いします。
- ・ 皆様方のご努力により見やすい冊子をご提供くださり感謝しています。貴会がますますご発展されますようお祈り申し上げます。

- ・ International RiverSymposium に日本の河川をノミネートさせましょう。

- ・ とくにありません。

- ・ 特になし

- ・ 建設コンサルタントに勤務し、治水・利水を中心とした河川業務を行っています。業務を行っている中で、疑問に感じている事を2点ほど列挙します。

##### ①多自然川づくりについて

地方の中小河川では、どこまで本気で実施しているのだろうか？ ただ石材を使えば、多自然川づくりみたいな所が未だに残っている。なるべく施工が楽な方向に持って行っている(行政側)と感じる。

##### ②河川の再生

河床勾配が緩すぎて、土砂が堆積し、植物が繁茂し、みお筋が固定化(水面が見えない所もある)しても行政は何もしない。整備済みとなると予算が付きにくいのは理解できるが、どこが川なのかも分からないような所を整備した河川と言えるのか？

特に②について、最改修の方法はある。しかし、どうやれば行政が動くのか。良い事例があれば今後の事例集等で取り上げてもらえると幸いです。

- ・ このアンケートで集まった意見を参考に多くの事例集、特集を作成してください。
- ・ 何時も、多数の水辺情報をお送りいただき有難うございます。
- ・ ニュースメールがライト版と詳細版になったのはよかった。同じニュースを何回も見せられるのは苦痛である(信頼度がなくなる)。
- ・ 河川の自然再生技術のデータベースの構築や普及啓発に期待しています。
- ・ いつも有用な情報発信ありがとうございます。今後ともよろしく願いいたします。
- ・ 防災・環境・福祉など、高齢化社会での川とのつきあい方の啓発に、JRRNのさらなるご活躍を期待します。
- ・ 日頃からお世話になっております。今後とも貴重な情報発信をお願いいたします。

- JRRN ニュースメールは、すでに Yahoo ニュース等で目を通したものが多いので、そうではない、地域密着の最新ニュースが増えることを期待しております。今後のますますのご隆盛をお祈り申し上げます。
- 今後とも情報提供をよろしく願います。
- いつも、大変お世話になっております。  
いつも、JRRN ニュースのメール配信、ありがとうございます。楽しく拝読させていただいております。
- とくにない。
- 河川法の改正に伴う総合治水が叫ばれるようになってから長い年月が経っていますが、まだまだ市人住人が関われる場所は少ないと思います。それは生活習慣によるものかもしれませんが、将来の子ども達が健やかに暮らせるように我々は英知を結集して国土の修復を図る必要があると思います。インフラを修復する財源は今後見込むことは出来ませんが、枯渇する資源や財源を克服することができるだけ十分な社会関係資本（社会における繋がり）を築きましょう。ますますの内容の充実と訴求力の向上を心からお祈り申し上げます。
- 各種講習会の開催。（特に、実河川を使った講習など）
- 河川が治水や漁業関係者のものではなく自然と共生する地域全体の財産になるように、また山から海まで連続した役割を果たせるように、総合的な視点での取り組みに期待しています。
- 今後も、さまざまな情報をコンパクトにご紹介いただければ助かります。
- 毎回の情報、役に立っています。毎月の例会で、会員に紹介しています。

### 3. 今後の JRRN 活動への反映

今回のアンケートを通じて皆様から頂きました貴重なご意見は、今後の河川再生事例情報の充実化に向けた取組みに留まらず、JRRN 活動全体の未来の方向性を見出す上で大いに参考になりました。本アンケート結果を踏まえ、今後の JRRN 活動、特に会員皆様に役立つ河川再生事例情報の整備に向け、以下の様に取り組んでまいります。

#### 【1】河川再生事例情報の質・量の充実化に向けて

- ✓ 「再生の視点」として、事務局スタッフが想定していなかった実に多様な視点（切り口）の存在を知ることができました。今後の再生事例情報の収集・整理に際しては、これら多様な視点を常に意識し（アンテナを張り）ながら、関連情報の充足・補完に努めます。
- ✓ 特に回答者の関心が高かった「住民・地域協働」「市民・行政・企業等の役割」、「治水との共存」、「河川再生に関する技術」、維持管理手法等を含む「再生後の現状・評価」等の情報の充実化が図れるよう、再生事例情報の整理・分析を進めます。
- ✓ 会員皆様より全国様々な再生事例・取組みをご紹介頂くとともに、約 6 割以上の方々が情報提供等のご協力に前向きであることが分かりました。JRRN を通じてこれら情報を全国に紹介できるよう、実際に再生活動に携わる様々なセクターに属する会員のリアルな声・専門情報を素材に、今後の事例情報の充実化を図るための仕組み（会員から情報を容易に提供できる体制）を構築してまいります。
- ✓ コスト、資金源、評価、失敗事例等々、現状の公開情報からは得ることが難しい要望に応えていくため、JRRN が主催する講演会や意見交換会を通じてこうした情報を取得し、事例の蓄積情報へと反映させていく流れを目指します。

#### 【2】河川再生事例蓄積成果の JRRN 会員皆様との共有に向けて

- ✓ JRRN 活動を通じて集約した河川再生事例情報は、まずはホームページ上での情報公開を最優先に会員皆様との情報共有に努めてまいります。
- ✓ 河川再生事例集 ver.2 の発刊に向けては、初版に対して頂いた貴重なご意見（質と量、分析面、編集面等）を活かし質的な改善を図るとともに、助成金等の外部資金の獲得を目指し、継続的に発刊していきけるような資金面での基盤整備も努めてまいります。
- ✓ JRRN 河川環境ミニ講座等の主催行事を通じて、ホームページや事例集（書籍）だけでは伝えられない河川再生担い手の生の声を会員皆様に届けられるよう、企画を工夫して参ります。
- ✓ 今回のアンケートの様に、会員皆様のご意見・要望・専門情報等を積極的に会員間で共有し、またその内容を JRRN 活動全体へとフィードバックしていく交通整理役を、JRRN 事務局として目指します。

最後に

この度は、お忙しい中、アンケートにご協力頂きまして誠にありがとうございました。皆様からの貴重なご意見を今後の活動に反映しながら、各地域に相応しい河川・流域再生の技術や仕組みづくりの発展に会員皆様とともに貢献していきたいと思っております。

2011 年 8 月 JRRN 事務局（伊藤将文）